

古河文化見聞録

大鳥圭介と戊辰戦争小山の戦い

1年5カ月にわたる内乱、戊辰戦争

戊辰戦争。慶応4年＝明治元(1868)年の干支である「戊辰」に因んで名づけられた一連の戦いは、瓦解した旧江戸幕府(徳川政権)を依然支持する旧幕府軍と、それを鎮撫する明治新政府軍が激戦を繰り広げた内乱です。

戦争の発端となった鳥羽伏見の戦い、江戸上野寛永寺山内での彰義隊の戦い(上野戦争)、白虎隊の悲劇を生んだ会津藩の戦い(会津戦争)、会津藩救済を目指した奥羽越列藩同盟の戦い、蝦夷地に榎本武揚を中心に共和国を樹立した箱館政府の戦い(箱館戦争)などが有名ですが、戦線が東北・蝦夷地(北海道)へと拡大するなか、古河市域の近郊で両軍の激戦がおこなわれたことは、あまり知られていません。

ここで、以降の戊辰戦争で旧幕府陸軍の中心的役割をはたす人物が登場します。名は歩兵奉行大鳥圭介。旧幕府陸軍の最高幹部6人の内のひとりで、伝習隊を率っていました。

フランス式最新鋭装備を誇る精鋭部隊 伝習隊の江戸集団脱走

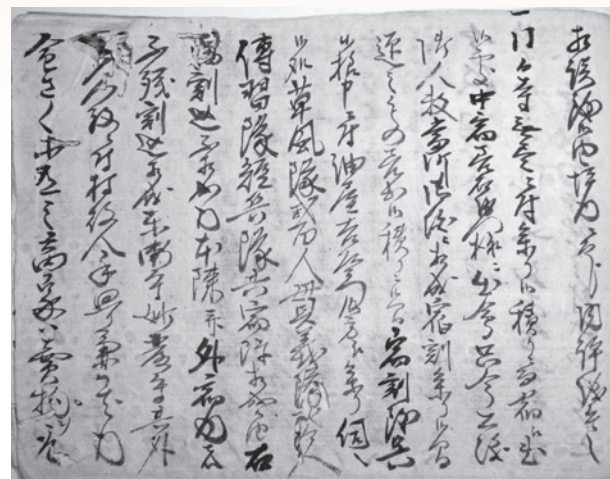
江戸城の無血開城が行われる慶応4年4月11日の夜明け前、大鳥圭介は伝習隊第一大隊・第二大隊を率いて、江戸を脱走、向島から市川方面へ向かいました。伝習隊とは、幕府が招聘したフランス軍事顧問団の直接指導を受けた旧幕府陸軍の精鋭部隊で、装備も当時最新鋭、号令に一部フランス語が用いられるなど、後発の諸隊のモデル隊でした。

雨が降りしきる翌12日、恭順を拒否し、江戸を脱走した諸隊も、続々と下総国府台に

集結。その中には、以後、大鳥と行動をともにする新撰組副局長土方歳三の姿もありました。評議の結果、大鳥を総督に選んだ旧幕府軍は、大鳥本隊と土方支隊に分かれて進軍、当面の目標地を日光としました。

大鳥本隊は山崎・船形(以上、野田市)・蕨・逆井(以上、坂東市)を経て、15日に諸川町に宿泊。また、同日には、大鳥とは合流せず、別行動中の草風隊・貫義隊・凌霜隊も、止宿していた磯部村勝願寺を発ち、仁連町へ行軍、宿泊します。

この時の、諸川町の様子を「今八時半頃公辺御人数江戸脱走之方二凡六百四五拾人船形御出立之由追々夜二入迄着宿方一同御宿二相成」と、また、仁連町も「草風隊式百人、貫義隊式百人、伝習隊、短(撒)兵隊共宿付相成候由、右宿割込不相成内本陣并外宿内者不残割込相成、東禅寺・妙厳寺其外大人数二付村役人手廻り兼」と、町役人が自身の日記に記しており、宿場中に溢れる歩兵たちの宿割を巡る混乱ぶりがうかがえます。



▲「仁連江口鈴木長右衛門日記」(仁連江口鈴木家文書)



▲新政府軍館林藩兵の墓(結城市武井、旧泰平寺)

▲国の特別史跡五稜郭(北海道函館市五稜郭町)

戊辰戦争下野小山の戦い(第1次～4次)

話しは、ほんの少し時を巻き戻した慶応4年4月2日。国境への会津藩兵出沒や下野世直し一揆の波及に苦慮した宇都宮藩からの救援要請を受け、新政府軍東山道先鋒総督府は、大軍監香川敬三を指揮官とする救援隊を急遽、派遣します。

途中、香川救援隊は、本隊と支隊の2隊にわかれ、参謀祖式金八郎が支隊を率いて、佐幕派に占領されていた結城城を攻略しました。日光・宇都宮・真岡・結城方面を鎮圧した香川救援隊の本隊は宇都宮に、祖式支隊は結城に駐屯しますが、北上する旧幕府の大軍が古河近郊に出現という通報に驚愕、急遽、平川和太郎支隊(笠間・壬生・彦根藩兵)を編成、宇都宮から古河方面へ派遣します。

4月16日午前、南下中の平川支隊は小山宿を過ぎた付近で、結城救援のため急反転したところを、草風隊・貫義隊・凌霜隊に追撃され、平川支隊は敗走(第1次小山の戦い)。

同日、昼過ぎ、結城城から南下の祖式支隊(結城・館林・須坂藩兵)は、大鳥本隊の先鋒と、武井宿(結城市武井)・北南茂呂村間の台仙坊(大戦防)付近で遭遇、砲撃・銃撃戦となり、挟撃をねらった祖式支隊は多くの戦死・負傷者を出し敗走(第2次小山の戦い)。

平川支隊敗走の報を受け、香川本隊(岩村田・彦根・足利藩兵)は宇都宮から南下、先に小山宿を抑えることに成功、同17日、午前9時頃、迎撃戦にですが、侵入する大鳥本隊に散開・包囲され敗走(第3次小山の戦い)。

同日の夕方には、結城城より進軍した祖式

支隊が、小山宿で休息中の大鳥本隊の間について攻撃しますが、反撃にあい敗走(第4次小山の戦い)。小山の戦いは、いずれも旧幕府軍の快勝に終わり、香川救援隊は事実上潰滅しましたが、以降の戦局は旧幕府軍側に不利な流れとなり、戦場も北へ移っていきます。結城市武井には、小山の戦いで戦死した新政府軍館林藩兵の墓がひっそりと建っています。

その後の大鳥圭介

小山の戦いの後、大鳥は、宇都宮・日光・今市・会津・箱館五稜郭などを転戦します。五稜郭の箱館政府では、入札(投票)の結果、陸軍奉行に選出されましたが、翌明治2年の明治新政府軍の総攻撃で、江戸脱走直後より行動をともにした土方が戦死し、箱館政府も無条件降伏、ここに戊辰戦争は終結しました。降伏後、大鳥は、他の箱館政府幹部と東京へ護送、投獄されますが、明治5年正月放免となり、明治政府に出仕。大蔵小丞・工部大学学校校長・工部美術学校校長・学習院院長・華族女学校校長・清国特命全権公使などを歴任しました。

三和資料館では、明治改元150年記念として「館蔵資料にみる幕末・明治～第2部：戊辰戦争から廃藩置県まで～」と題した館蔵資料展を開催。館蔵資料から、古河市域の幕末・明治期に注目しますので、ぜひご来館ください。会期は12月26日(火)まで。

三和資料館学芸員 白石謙次